



祝祭日には



を掲げましょう

# いまこそ集落創生

## 第4回 入有屋地区



1\_昨年10月、入有屋地区公園にオオヤマザクラ20本が植樹された。遊具も整備されており地区住民の憩いの場だ  
2\_ごみステーションには地区育成会のスローガン 3\_金山川の最上流部に架かる「神室橋」は当地区と下向地区を結ぶ

神室山から流れくる金山川の上流部、古代の道「有屋峠」の登り口に位置する入有屋地区。現在は約25世帯、90名ほどが暮らしています。

「金山のはじまり」との言い伝えもある入有屋地区。その歴史は千年以上も前にさかのぼります。「戦を逃れ、神室山を越えた末に辿りついた柴田清左衛門がこの地を拓いたと聞いている」と話すのは柴田清次さん。清次さんは柴田清左衛門の子孫にあたります。入有屋に陣を取ったきっかけとされる「化け石」が残されている点も驚きです。「入植の決め手は食料の豊富さ。川魚や木の実などがとれ、食料に困ることはなかったようだ。その後、金山川沿いに下流へ集落が形成されていった」とのこと。言い伝えも含まれますが、残されている地方文書等から、かなり古い時代から開拓が行われていたと類推できます。

建設業者が多いことも入有屋地区の特徴。実は、農業用地となる田畑の面積が少なかったことと密接に関係しています。今から50年以上前、農業だけでは生活ができなかった入有屋の住民は、比較的早い時期から出稼ぎにでました。高度経済成長期の東京で多くの経験を積み、主に建設技術を習得。それを生かして町に貢献しようと、会社を設立させたそうです。1社をきつかけに、同時期に続々と設立が続いた背景からは負けず嫌いな住民性がうかがえます。

歴史をひも解くことは大切なこと。成り立ちを知ることで愛着が生まれ、それは誇りに繋がります。これからも若い世代に語り継ぐことで、入有屋地区の歴史は紡がれていきます。

金山町の人口は、5,590人（5月末現在）

男性 2,704人（-7）  
女性 2,886人（-6）  
世帯数 1,769世帯

5月の異動  
出生 3人  
死亡 9人  
転入 3人  
転出 10人

### 編集 幸記

▼今年もハイレルな争いが繰り広げられた消防操法大会。実は筆者も3番員として初出場しました。広報担当になってから、多くの操法を見てきたつもりでしたが、見るのとやるのでは大違い。約1カ月間、先輩方にご指導いただいたおかげで、なんとか恥ずかしくない操法ができました。

6月から町づくりフォーラムが始まっています。普段感じていたことなどを、直接町長と話すことができる機会。地区に限らず、団体での開催も受け付け中です。お申し込みは役場総務課まで。（つま）